

12月14日大阪府議会における
原子力審議会

熊取2号炉認可策動を許さな

「19日熊取町が協議での『安全確認』粉碎さる！」

★ 2号炉推進側の極秘文書パクロさる！ ★

熊取町原子力問題対策協議会（以下町対策協）の構成員たびその周辺部に以下の内容の極秘文書が渡されていたことが、去る11月12日に暴露された。

この文書は大阪府原子炉問題審議会事務局から出され、「9月4日、安全専門委「2号炉は完全」報告を認める。①今までの熊取町、泉佐野市の地、新たに美塚市への負担金」を検討するする内容であった。この根回しをもって、11月19日、町対策での「安全性検討終了」。12月2日、および12月10日府審議会での2号炉認可を策動していったのである。

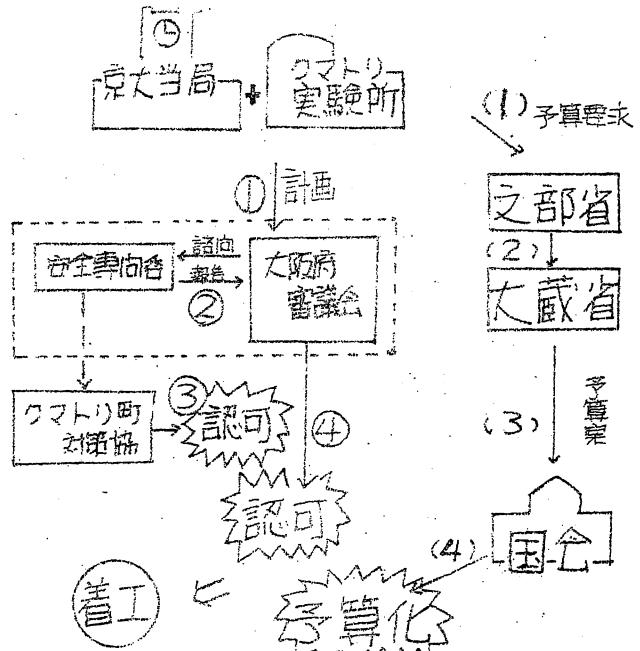
そのためにコマカシ（例えは地震評価）だらけの「2号炉は完全」報告書を認め、住民の命を金で買いつける「負担金」、さらには町対策協、府審議会の審議前に極秘根回し文書をまわす……。そこには「住民との話し合い」「住民の安全、命の尊重」などはナシナシと見当らない。

★ 我々の反撃の前に、19日町対策協失敗す！ ★

しかし、住民、労働者、そして学生も熱ってはいない。11月12日の極秘文書の暴露の地、地元美熊台自治会では、絶対反対決議、東和窯、美熊台を中心として、300署名が短期間に700名（ほぼ住民全員）集まつた。さらに自學會も、19日町対策協当日、大阪府警、府警局が一体となつた警戒態勢の中、「2号炉認可をするな」との要請文を対策協に手渡した。

こうした反撃の前に、推進側は19日対策協で「安全性OK」の結論を出せなかつた。そして、新たに「1回目、12月14日、2回目12月10日、又は1月×府審議会」と設定し、2号炉早期認可を狙つている。（ウラヘ）

★ 2号炉認可策動のしくみ ★



①②…の順に進む。
③④…はすでに済んでる。

現在、③④の動きが驚異化している。

推進側は当初、11月19日に③を、12月2日と年次某日のみ2回で④を済ませる予定だった。

しかし、19日③の認可が粉碎され、彼らは、12月14日と年次某日（1月某日）に④を済ませる、と予定変更を余儀なくされた。

同窓会

推進側の実務的政治工作

また推進側は、東洋は政治工作をさらに強化してきた。絶対反対を求める美熊台自治会、会長室に原子炉所員ら約10名が早朝訪れ「19日対策協議では、2号炉賛成と言ふ」と場所を如えた。度々の町内会合や反対署名の集中によって、反対の意志は確定している東和苑自治会会長、神田（原子炉建設反対）は、審議会席上、反対と発言するどころか「反対は、感情的なものにすぎない。」などとちってのけた。さらに、加名もの反対署名、同学会の電請文は19日、町対策協議前に各委員に渡される約束であつたにも拘らず、町当局は、それらをもみ消したのである。さらに19日に町対策協議でりんかとれなか、た実験所は、来る29日、美熊台、東和苑自治会で「説明会」を開き、「安全性の合意がとれた。」とするアドバイ作りを活動している。

この中にあって日本共産党は彼らの東南地区の拠点、原子炉議連組合を「争う」とセント性をもき出しにし、大阪府議会では「早期認可差工を！」と発言し、町当局、町内、そして京大院内においては「反対するのは一部の暴力団」とテマキヤンペーンをはづている。

地元住民と共に2号炉計画を粉碎しよう！

鉄鋼造船、石油化学などの基幹産業の構造不況に象徴される日本フルショックの危機を回避するため、住民環境活動者への理解を強要しつつ、国家的に原子力推進政策が進められている。そして、再び理工場建設、富国への小型原子炉売りつけと、原子力推進政策は、独自核武装、強制侵略、侵略的立場開拓しつつある。

こうした国家的原子力推進政策をバツクにして、京大当局、府当局、町当局、原子炉実験所ら推進側は、自らの、金、地位、名誉、仕事のナウバリを守るために、やっさになつて2号炉計画を實現させようとしている。そのため、金利調査、政治的圧力をかけて19日町対策協議に見られたように、警察権力をも動員している。その一方で700の署名を始めとする、住民の斗争も日ごとに力を増し、推進派の巨論みの第一歩——19日町対策協議でのOKを粉碎した。エコトリ斗争は、来年度予算化着手をめぐり、まさに正危機にきた。来る12月14日には、2号炉配電へのステップとして、府議会が実行されようとしている。

地元住民の斗争に応え、我々も学内で京大当局、原子炉を普及し、12月14日府議会への圧力をしよう。ともに三井ん！